

コースツリー Q & A

コースツリー導入の背景

- 全学として、こういった目的でどのような取り組みが目指されているのか知りたい。（教員）

➤ コースツリーの作成は、大学教育の質保証のための一連の活動の基礎となる作業です。大学評価への対応という側面もあります。スライドNo. 4、6 をご参照ください。

コースツリーの意義/活用法

- どんな意義があるのか（疑問）（教員）
- 作成したツリーを学生がどのように利用するのか？ こちらの意図するような反応をしてくれるかどうか？（教員）
- どのような学生をどのように育てたいと考えているのか教員間で共有したり、学生が自分の育ちを意識しながら主体的に学習に取り組めるようにすることを目指すものだと思いますが、その良い実践例などあれば知れると嬉しいです。（教員）
- 認証評価の関係で、コースツリー作成という話がでてきていると理解しているが、どのような活用法があるのかも十分理解できていない。（教員）
- どのような活用がされるのか情報を収集したい。（教員）
- 「絵に描いたモチ」にしないための活用こそたいせつだと思うので、有益な方法があればぜひ教えてほしいです。（教員）
- よほどの覚悟を持って時間割から組み直さないと、コースツリーは形骸化している。（教員）
- 従来の授業カリキュラムとのすりあわせ（が課題である）（教員）

➤ コースツリー作成の意義は、学生にとっての意義と教職員にとっての意義の両方があります。コースツリーを形骸化させないためには、作成されたコースツリーを土台にカリキュラムの見直しをすることが重要です。スライドNo. 7 をご参照ください。

コースツリーをどのように表現するか？

- 求める能力が階層的になっており、基礎となる箇所と上位になる箇所があると考えていることと、年次的に進行する科目プロセスをどのように組み入れて図式化すると分かりやすくなるのかと悩ましく思っています。（教員）
- 卒業時に目指す学生の能力に階層性がある場合、能力と授業科目の関連をどのように示すと良いか。

実践能力とその基礎となる能力がある場合、実践能力の基礎となる能力にはほとんどの科目が関連し、矢印が複雑になってしまう。(教員)

- 授業やカリキュラムを詳細に書くと、反って複雑になり見づらいことはないだろうか。(教員)
- コースツリーは、見栄えがよい方がよいのだろうか。(教員)
- 理学部全体と各系のコースツリーの関係はどうあるべきだろうか。(教員)
- 必ず学部内で統一様式にする必要はありますか。(職員)

➤ 複数のコースツリーが学生便覧において同時に提供されることを考えると、ある程度統一されていた方が、学生が理解しやすいと思われます。どの程度具体的に授業名を入れるのか、またどの程度、関連性が強ければ矢印をひくのか等の判断は、「学生にとって見やすく理解しやすいか」という観点から優先度を決定することが可能かと思います。

コースツリーの構成要素

- 文系・理系などの別によって作成するときに予め知っておいた方がよい相違点(注意点)はありますか?
- これだけは外せないという基幹となる部分を教えて欲しい。(職員)
- 既存の履修モデルをそのままコースツリーとみなせるか(職員)

➤ 各授業が、どのようなディプロマポリシーのもとで構成されているのかが明確となるように、授業と授業の関連、またそれらがどのようにディプロマポリシーにつながっているのかという系統を示すことがもっとも重要です。いくつかの事例を配布していますので、最終的なイメージを事前にもって作業を行ったほうがよいと思われます。コースツリーの構成要素(スライドNo.8)、コースツリーのタイプ(スライドNo.9)とそのテンプレート(スライドNo.10~18)をご参照ください。

ディプロマポリシーとの対応について

- ディプロマポリシーとどう対応させるか等を含め、コースツリー作成時に何を注意すべきかを理解していない。(教員)

➤ 「なぜこの授業を配置することが必要なのか」「この授業でどのような能力や知識を学生に身につけさせたいのか」という観点から一つ一つの授業をとらえ直す作業を行うことで、ディプロマポリシーとの関連を見いだしていくことが必要です。コースツリーの作成手順(スライドNo.19)もご参照ください。

ナンバリングとの関連性は?

- ナンバリングやディプロマポリシーとの連携について。(教員)
- 従来の科目コードを使用した方が混乱しないと思われるので、コースツリーをそのようにしたいと

考えています。（職員）

- コースツリーの作成とナンバリングの設定は相互に深く関連しています。現状のナンバリング案では、必ずしもコースツリーとの整合性がとれていない場合がありますが、将来的には、コースツリーの階層とナンバリングの番号が対応づけられていることが、望ましいと考えます。スライドNo.6もご参照ください。

コースツリー作成に適したソフトについて

- コースツリー作成に適したソフトがあればお教えいただきたい。（ワードやパワーポイントを使用されているが、それ以外で適したものがあれば）（職員）

- 「コースツリー作成のために授業間の関連を把握する作業」と、「見やすく電子化する作業」とに分けられますが、前者の作業は複数の教員で行うことが多く、その場合はアナログではありますが、ポストイットと模造紙を利用して作業することが多いようです。後者の作業ならびにお一人で作業される場合は、センターで準備したテンプレート（スライドNo.10～18）もご利用ください。

大学院におけるコースツリーの作成方法

- 学部を持たない独立研究科は研究指導が中心となるため、学部と同じようにコースツリーを作成するのは難しいと思いますが、独立研究科についてもコースツリーを作成する必要があるのでしょうか？（教員）
- 大学院専門性の高い大学院でどのようなものが必要とされるのか教えていただきたい。（職員）

- 配置される科目数に違いはありますが、授業とディプロマポリシーとの関連を系統図に示すという意味では、大学院でも同じように作成可能です。大学院用のコースツリーのテンプレートを作成しましたのでご参照ください（スライドNo.17、18）

サポート体制について

- コースツリーの作成には膨大な負荷（人的・時間的の両方）がかかることが想定される。またこの取り組みについて関係教員等の理解・協力を得ることはなかなかことではできない。専門家の適切な配置・介入が必要なのでは無いか。（職員）
- 暫定版のコースツリーをどう改善すると良いかについて情報が得られると良い。（教員）
- 教員も職員も初めて作成する学部も多いかと思われますので、作成にあたっての指導、案のチェックやアドバイスを受けられるシステムが望まれます。（職員）

- FD研究検討委員会では、今後も勉強会が予定されています。

協力体制の構築について

- コースツリーの取り組みをどのように自部局内に理解・浸透させていくのか、どのように協力体制を整えるのか、など。（職員）
- 構成メンバー以外、勉強会に参加していない、参加を希望しない教員を含めて、いかに部局内での情報共有と共通理解を進めていくかについてアイデアがあれば教えてほしい。（教員）
- 教育に対する教員の考え方がバラバラで、評価に対する基本的なコンセンサスすら築けない現状で、コースツリーを機能させるにはどうすれば良いか。（教員）

➤ コースツリーの作成は、それぞれの「部局」の教育課程を、「教員それぞれが提供する授業科目の集合体」から「部局の教育目標に関連づけながら授業科目全体を体系化したもの」へと変換していくことを促す作業の一つであるといえます。本来、その作成には、部局全体の協力体制が必要ですが、こうした作業を、協力体制を築くための一つの契機、あるいは評価に対するコンセンサスを築くためのツールの一つ、と捉えることもできます。まずは試案的に作成し、提示し、議論の糸口になることが重要かと考えます。